

エメラルド色の若葉

森野かずみ



ホオノキ

盛り上がるような緑が風に吹かれ、ザワザワと葉ずれの音をする季節となりました。ごくかすかな風でも揺れるように作られている木々のおかげで、私たちは風の向きや強さを知ることができます。

山の谷筋でよく見かけますが、この辺りではあまり見かけない樹木に、ホオノキ(朴の木)があります。樹高20m前後になる高木で、日本の在来種では最大級の花を咲かせ、なおかつ単葉では最大級の葉を付けます。花の直径は15cm以上あり、黄白色で花被片(かひへん)は10個前後。外側の3個は一部紅色を帯びた淡緑色、内側の7個前後は花弁状で、中心部に多数の赤紫色のめしべと花糸の赤いおしべがらせん状に付いています。めしべ群を取り巻くおしべの色彩の取り合わせは非常に美しいのですが、開花するとすぐにおしべはバラバラに落ちてしまうため、見ることでできれば非常にラッキーです。

葉の長さは普通30cm以上で、葉の先の方が幅が広く、単葉ながら枝先に葉が集まってつくので、遠くから見ると手のひらのような複葉が付くトチノキに似ています。鋸歯がないことで見分けられます。5月頃の若葉は透き通るようなエメラルド色をしていて、太陽を背景にして見上げると、目の覚めるような美しさを感じます。朴の葉は飛騨高山の朴葉味噌で有名ですが、他の地方でも料理を包むのに利用されています。

光が丘の四季の香公園マгноリア園の西側で観察できますが、花は見上げる形になります。「地上最古の花」といわれるマгноリアとともに、足元に注意して散歩をお続けください。

※ Kaceeのホームページでカラー写真をご覧ください。